

人を対象とする医学系研究に関する情報公開

福島県立医科大学医学部健康リスクコミュニケーション学講座では、本学倫理委員会の承認を得て、下記の人を対象とする医学系研究を実施します。関係各位のご理解とご協力をお願い申し上げます。

平成30年7月
福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座 小林智之

【研究課題名】

訪問アンケートを用いた介護サービス未利用者の特性評価

【研究期間】

2018年7月（承認後）から 2022年3月

【研究の意義・目的】

認知症高齢者の健康や安全のためには、地域住民の健康の保持増進を担う保健師などの医療従事者による対象者の健康や安全の状態についての把握が容易であることが望まれます。しかし、介護認定審査会によって要支援認定を受けた者は、認定を受けながらもそのうちの40%ほどが介護サービスを未利用のまま過ごしていることが知られています。当然、要支援認定を受けたとしても実際に介護サービスを利用するかはご本人たちの自由ではありますが、医療従事者は未利用者の方々に対しても対応の必要性について把握できていることが求められます。

福島県いわき市では、近年、高齢化率の上昇が懸念されています。上述した問題意識のもと、いわき市地域包括支援センターでは、平成27年7月から平成28年3月にかけて、要支援認定を受けながら介護サービスを未利用のままに過ごしている方々に訪問調査を行いました。

本研究では、いわき市地域包括支援センターより、その訪問調査で収集されたデータの提供を受け、介護サービス未利用者の実態や特徴などについての分析を行います。

本研究の結果は、いわき市内における認知症高齢者が抱えるリスクを把握し、将来相談につながりやすい対象者や他者との関わりが少ない認知症高齢者の特徴や生活課題を明らかにすることで実際の支援や政策提言への利用が期待されます。また、災害に伴う避難が急速な高齢化に寄与するとされることから、本研究の結果はいわき市内のみならず、福島県内外における災害時対応へのヒントになると考えられます。

【研究の対象となる方】

いわき市地域包括支援センターによって実施された訪問調査の対象となった方が分析の対象となります。

【研究の方法】

本研究では、要支援認定を受けながら介護サービスを未利用のままに過ごしている者の実態や特徴などについて検討するため、いわき市地域包括支援センターによって実施された訪問調査のデータの提供を受け、分析を行います。

いわき市地域包括支援センターでは、通常の業務の中で調査対象者への訪問も行っており、要支援認定を受けた介護サービス未利用者への訪問調査は、その通常業務と同時

に行われました。

本研究において、福島県立医科大学は、いわき市地域包括支援センターによって個人を特定できる情報がすべて削除されたデータを受け取ります。具体的には、受け取るデータは、以下の通りです。

- ① 調査情報：訪問日、調査地区
- ② 回答者の個人特性：性別、年齢
- ③ 要支援認定に関するもの：認定結果、認定機関、日常生活自立度、認知症診断、診断時期
- ④ 交流関係：専門医受診の状況、家族構成、近所付き合いの程度、サロンやサークルへの参加や友人との行き来の状況、相談相手、相談医師、将来世話をしてくれる人
- ⑤ 生活環境：生活する中での危険な場所

その他、介護サービスを利用しない理由などについてもデータの提供を受けます。

分析にあたっては、介護サービス未利用者の実態や特徴について把握するため、各項目の単純集計だけでなく、項目間の相関関係や因果関係に関する統計解析も行います。

【研究組織】

- ・研究代表者
（所属）福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座
（職）助教 （氏名）小林智之
- ・共同研究機関研究責任者
（所属）小名浜地域包括支援センター
（職）保健師 （氏名）片寄 美由紀

【本研究に関する問い合わせ先】

本研究に関する御質問などがございましたら、下記の連絡先までお問い合わせください。他の研究対象者などの個人情報及び知的財産の保護などに支障がない範囲内で研究計画書及び研究の方法に関する資料を閲覧できます。

○研究内容に関する問い合わせの窓口

〒960-1295 福島県福島市光が丘1
公立大学法人福島県立医科大学医学部災害こころの医学講座
担当 小林智之
電話：024-547-1887 FAX：024-547-1892
E-mail: tomokoba@fmu.ac.jp